

浜通り平坦部におけるタマネギ栽培体系(南相馬市)

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター技術研究科

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証

研究課題名 畑地における秋まきタマネギの実証

担当者名 根本知明

I 実証技術の解説

1 要旨

南相馬市小高区平坦部におけるタマネギ栽培は、秋まき栽培と春まき栽培を組み合わせることで、6月中旬から7月上旬まで収穫可能となる。

- (1) 秋まき栽培は、9月中旬に播種し11月上旬に定植すると、6月中旬に収穫期となる(図1)。
- (2) 春まき栽培は、1月中旬に播種し4月上旬に定植すると、7月上旬に収穫期となる(図1)。
- (3) 収量は、秋まき栽培 5.1t/10a、春まき栽培 4.3t/10a となった(表1)。

2 期待される効果

- (1) 営農再開時の品目選定の参考にできる。
- (2) 秋まき・春まきタマネギ栽培の主な作業は機械化でき(播種、定植、防除、収穫)、水稲や大豆との経営に組み合わせやすい。

3 活用上の留意点

- (1) 南相馬市小高区平坦部の畑地において「もみじ3号」を用いた実証結果である。
- (2) シロザ等の雑草が繁茂するとタマネギの生育が劣るので、雑草発生を抑えるため計画的に除草対策を実施する。

II 具体的データ等

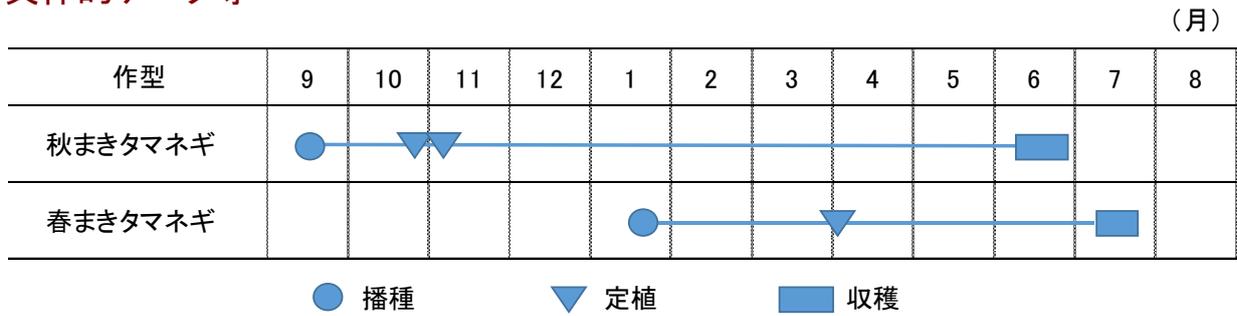


図1 南相馬市小高区平坦部におけるタマネギ栽培体系

注) 作業は平成 29~30 年の実績

表1 南相馬市小高区平坦部におけるタマネギの収量

作型	収量[t/10a] 注1	倒伏日 注2
秋まきタマネギ	5.1	6月15日
春まきタマネギ	4.3	7月8日
地域平均(参考、南相馬市)	3.0	—

注1) 収量: 福島県青果物出荷規格の球径6cm以上のもの

注2) 倒伏日: ほ場の茎葉80%程度が倒伏した日



図1 秋まきタマネギの様子(左: 茎葉肥大期5月下旬、右: 倒伏期6月中旬)

III その他

1 執筆者

根本知明

2 実施期間

平成 30 年度

3 主な参考文献・資料

- (1) 「東北・北陸地域におけるタマネギの春まき栽培技術」平成27年度・(国研)農研機構東北農業研究センター
- (2) 「タマネギ栽培における機械化作業体系の実証(南相馬市)」平成29年度・営農再開実証技術情報

